



「スキーキャンプの思い出」

みなさんこんにちは。私は、小学校1年生から中学校2年生まで毎年、YMCAのスキーキャンプに参加していました。時が経つのは早いもので、あっという間に高校生、つまりスキーキャンプに参加できない年齢になってしまいました。

YMCAのスキーキャンプでは、幼稚園から中学生までの友達、そしてリーダーたちとの素敵な出会いがたくさんありました。YMCAのスキーキャンプは、家族とスキーに行くのとは、一味も二味も違います。グループのみんなと一列になって滑ったり、リフトに乗りながら大声で歌ったり、リーダーに雪玉を投げつけてみたり...

スキーだけでなく、みんなで、ワイワイご飯を食べたり、夜にリーダーたちが考えてくれていたユニークなレクをしたことなども、思い出に残っています。最初は緊張していて静かだった子も、あっという間にみんなと打ち解けてはしゃぎまわっていました。

YMCAのスキーキャンプは、素の自分で過ごせる場所だと思います。また、スキーキャンプという名は付いていますが、スキーの上手い下手は関係なく思い切り楽しめるイベントです。実際に、私は小学1年生の時に参加した、初めてのキャンプがとても楽しかったので、家に帰りたくなくて、迎えに来た母に「来年も絶対行く！！」と宣言していました。母は一年後だよと言って苦笑いしていましたが(笑)。

そして毎年冬が近づくと、スキーキャンプが待ちきれなくてワクワクしていました。本当に素敵なスキーキャンプをつくってくれたリーダーたちには感謝しています。

これからも多くの方がスキーキャンプに参加して、思い切り楽しんでくれたらいいなと思っています。

盛岡YMCAメンバーOG 山崎詩織

盛岡YMCAの使命

私たち、盛岡YMCAは、イエス・キリストによって示された生き方に学びつつ、豊かな自然と歴史的伝統に満ちた岩手の地で、こども、家族、地域とともに公正で平和な世界の実現を目指します。

1. こどもたちの個性を大切にし、それぞれの夢や希望、生きる力を育みます。
2. 家族の絆といのちの大切さを深め合います。
3. 共に生きるために、異なった文化、多様な価値観と出会う場を提供します。

国際協力募金スタート!!

盛岡YMCAでは、今年度も11月より国際協力募金をスタートしており、主な活動内容は、国際協力募金と街頭募金活動になります。

国際協力募金では、期間中(11月1日～3月31日)国際協力活動の支えとなる資金を募らせて頂きます。街頭募金活動(11月23日)は、プログラム会員、保護者の方等の有志メンバーで大通りを中心に行います。

頂いた募金は、日本YMCA同盟を通して各国のYMCAに送金されます。主な目的は難民支援、コミュニティ支援、災害支援になります。難民支援、コミュニティ支援は、カンボジア、東ティモール、インドネシア、ギリシャ、パレスチナに対し、災害支援はネパール、フィリピン、インドネシア、ペルーに対し行っています。

支援の対象とする相手の顔はもちろん分かりません。もしかしたら、この先会う事もないかも知れません。しかし、同じ世界に生きる誰かのために思い、行動する事を国際協力活動では大切にしています。1人ひとりの思い、行動の積み重ねが、かけがえのない支援へと繋がっていくと考えています。

YMCAは人道支援を専門とする組織ではありません。



ですが、社会教育の分野でこれまで積み上げてきたノウハウを生かし、理解ある協力団体や協力者と共に活動していきます。

今年度も、盛岡YMCAの国際協力活動にご理解を頂き何卒ご協力の程お願い致します。

国際協力担当 小川嘉文

「盛岡YMCAファミリークリスマス2018」参加者募集中

夏の猛暑を忘れるくらい、朝晩が冷え込んできました。冬の足音が、すぐそこまで聞こえてくるこの季節心弾むベルの音も一緒に聞こえてきませんか？

そうです、みんなが大好きなクリスマスが、もうすぐやってきます。そこで、YMCAでは、少し早いクリスマスを、家族みんなで楽しめる「盛岡YMCAファミリークリスマス2018」を開催いたします。

ファミリークリスマスは、クリスマスにまつわる物を作ることの出来る工作コーナーや、たくさんの笑いに包まれるゲームコーナー。そして最後には



歌って踊ることの出来る時間を家族一緒に楽しむ特別な時間です。

この日は、YMCA全体がクリスマス一色になるため、子どもだけでなく、大人も心から純

粋に楽しむことの出来る時間となっています。



そして、クリスマスが大好き、楽しいことが大好きなリーダーたちが準備するプログラムは、絶対に楽しい間違いなし!

ぜひ、ご家族皆さんでYMCAのクリスマスを体感ください。

ディレクター 東森聡

日にち： 2018年12月9日(日)
場所： 仁王地区活動センター(予定)
時間： 10時～12時
参加費： 一家族 2,500円(4人まで)
3,000円(5人以上)

お申込み
お問い合わせ：019-623-1575 盛岡YMCA

～2018年 上半期を振り返って～ (リーダーたちから)

～たくさんの思い出や出会い～

気付けば、2018年が終了するまで後、約2カ月。去年は、センター試験に向けて、勉強漬けの毎日だった。そして、岩手に来て半年、盛岡YMCAでたくさんの思い出や出会いがあった。

はじめに、私が普段行っている、本町サッカースクール。幼児は、サッカー以外のことで遊んでしまう子が数人。自分は、その子たちに対してどのように接したらいいのか分からなかったが、この半年のかかわりを通して、今では幼児全員がリーダーたちと一緒にサッカーを楽しんでいる。

小学生はとてもエネルギッシュだ。また、小学生は練習の1つ1つの意図を自分で考える姿勢を感じ取ることが出来る。その姿から、私自身も勉強になるし、アドバイスをしたいという思いが湧きでてきた。

次に、夏のキャンプで行った星空満点キャンプ。プログラムやキャンプの思いを、リーダーやスタッフと共有した時間、キャンプ2日間、事後ミーティングはとても充実していた。しかし、プログラムを実行する難しさや、キャンプ中に何か予想外のことが起きた時の、対応の難しさを痛感した。このキャンプを通して、自分自身の反省点がたくさん出てきた。その反省点をこれからの活動で100%活かしていきたいと思った。最後に9月初旬に行った福島スタディーツアー。そこで見た1つ1つの景色や、現地の方々の話は、今まで経験したことないほどの濃密な時間だった。そして同時に、福島県出身として何も知らなかった自分に対しての悔しさも出てきた。私の中で盛岡YMCAは、自分を知る機会であり、自分の成長につながる機会でもあるので、これからも頑張っていきたい。



岩手県立大学大学1年
菅野真矢(かきぴーリーダー)

～リーダーと一緒になら～

4月。リーダー2年目を迎えた私は、たくさんの新しい出会いを前にして、なんとなくソワソワして落ち着かない気分でした。しかし、時間を共にしているうちに、ソワソワはワクワクに変わっていきました。

活動を通して子どもたちやリーダーたちの新たな一面を知っていくことで、「もっと一緒に楽しみたい!」「もっと自分にできることがあるのではないか。」などといった、「もっと」という気持ちが強くなりました。なので、私が提案した遊びに子どもたちがはまってくれて、一緒になって思いつき遊んだ時の楽しさは、とても心に残っています。

この半年の活動の中で、私が特に印象に残っているのは、8月に行った北上川大満足キャンプでの出来事です。泳げないことを理由に、川に入ることを嫌がっていた子が、「アグーと一緒に入る!」と言ってくれたのです。

実は私も泳げないので、内心とても怖かったのですが、その言葉を聞いて勇気が出ました。私の存在が、子どもたちの中にあることを実感して嬉しく感じるとともに、子どもたちが初めてのことにチャレンジする貴重な瞬間を同じ目線で共にすることが出来て良かったと感じました。

盛岡YMCAのリーダーとして活動することの楽しさを感じる場面が、この半年で数え切れないほどありました。もちろん、上手い出来ない時もありますが、その先に楽しいことがたくさんあることを知っているのも、頑張ることができます。

これからも色々な活動に参加して、盛岡YMCAのリーダーとして過ごす時間を思いつき楽しみたいと思います!



岩手大学2年
吉田莉那(アグーリーダー)

～あっという間の半年間～

こんにちは!みんなです!岩手県立大学ソフトウェア情報学部3年、本名を岡田稜平と言います!今回、2018年度の半年間を振り返ってということで、実際に私の半年間を振り返ってみると、常に何かをしており、忙しくとても充実した、あっという間の半年間だったなあと実感しています。

4月に新入生が来てリーダーが増え、さらに賑やかになり、アドベンチャークラブに行きながら、水泳教室に行き、あっという間にサマーキャンプ...というふうに、とても充実した半年間になっていたと思います。

しかし、今年の半年間はYMCAの活動だけでなく、授業やゼミの活動がとても忙しく、なかなかYMCAの活動に行けなくなってしまいました。

時々しか活動に行くことが出来ませんでしたが、活動に行くたびに子どもやリーダーたちは、「みんなだ!!」と言ってくれ、いつも通り私とかかわってくれることが、とても嬉しかったのを覚えています。勉強やゼミはとても大変で、時には気持ち的にも追い込まれてしまいますが、一緒に時間を過ごす、子どもたちやリーダーと楽しく笑うことで、悩みや不安が吹き飛ばされます。そういう意味でも、私自身にとって、YMCAでの活動がなくてはならないものになっています。

今後はゼミや勉強でさらに大変になってきます。しかし、今まで通り、YMCAの人たちと楽しく笑い合いながら過ごしていきたい。そう思うみ

んみんなの半年間でした。
残りの半年間も頑張るぞ～!



岩手県立大学3年
岡田稜平(みんなリーダー)

～子どもたちの「できた」と一緒に～

こんにちは!盛岡YMCAでリーダーとして過ごし、4年と半年が経ったことに、驚きを隠せないチーズです。今年度の半年を振り返ってみると、たくさんの出来事があったなと思います。春、今年もたくさんの人との出会いを楽しみに、「どんなリーダーかな」「どんな子どもたちに会えるのかな」とわくわくしていました。多くの初めて出会う子どもやリーダーも、様々な活動を通していくうちに、様々な一面を見ることが出来、さらに楽しくなっていました。私が、この半年の中で一番印象に残っているのは、やっぱり夏のキャンプ。私にとっては、一つ一つのキャンプが大切な思い出です。

そして、「夏は暑いからチーズは溶けちゃうね。」という言葉は、「夏が来た!」と思ってしまうほどに、毎年のように子どもたちから言われます。

YMCAのキャンプでは、子どもたちが常にチャレンジをしています。今年度の夏キャンでも、たくさんのチャレンジが見られました。虫が怖いけど頑張ってトイレをしたり、片付けが苦手だけど、自分で荷物をまとめたりと、一人ひとりのチャレンジを応援することが出来一緒に過ごすことが出来て、私自身にとっても、本当に素敵な経験だなと感じます。

日々の活動でも、子どもたちの「できた」を、一緒に喜んで嬉しかったり出来ることを嬉しく思います。そして、そんな子どもたちがいるからこそ、私も子どもたちに負けないで頑張ろうと思うことが出来ます。残りの大学生活もあと半年、「チーズはこたつで溶けちゃうね」と言われる季節がやってきます。変わらず、チーズらしく駆け抜けたと思います!



盛岡大学4年
小野寺保乃香(チーズリーダー)

ポジティブネット①

「一步」

今回から、タイトルを新しくした。前号まで50回「君でいいんだよ」で連載してきたので、心機一転フレッシュな気持ちで再スタートだ。「ポジティブネット」は、日本にある全てのYMCAが共通に掲げるヴィジョンである。この言葉は互いの存在や個性を認め合うことのできる善意や前向きな気持ちによるネットワークを意味している。つまりYMCAは置かれた地域において、そこに生きる人々と共にこうした社会を創っていきますという共同宣言なのだ。

「ポジティブネット」はYMCAが新たに作った言葉だ。ちなみに「青年」という言葉はYong Menを和訳するために今から138年前、東京YMCAの創立メンバーが発案したと言われている。大きく社会が変容しようとするうねりの中で、私たちYMCAにはその都度新たな言葉が与えられて来た。そして、YMCAは実践するプログラムを通してその言葉の価値を地域に発信していく使命がある。

石巻栄光教会の川上直哉牧師によると、「ポジティブ」という言葉は、元はラテン語で「とりあえずおいてみる」感じのニュアンスがあるそうだ。「絶望的に落ち込む、にっちもさっちもいなくなる時、勇気を奮って恐れずに、とにかく積極的に打って出る」「一步踏み出してみる」様子を言い表すらしい。

先月、盛岡YMCAの学生リーダーが中心となり「福島スタディツアー」を企画、実施した。福島第一原子力発電所から半径20キロ内に位置する南相馬市、浪江町、富岡町などを訪問し、そこで生活する人々の話に耳を傾けた。

自宅が全壊した小高の廣畑さんは避難指示の解除後、帰還した人々の居場所を立ち上げた。震災前、浪江町で酪農に取り組んでいた吉沢さんは、殺処分される約300頭の牛を今でも飼い続け、反原発を世界に発信している。南相馬市鹿島区にある勝縁寺の湯澤住職は現在に至るまでボランティアを受け入れ続けている。こうした人々の出会いを通して私たちが気づかされたのは、何が正解か分からない混沌とした状況の中で、まさに、立ち上がり、一步を踏み出した人々の生き方だった。

ペテロは言った。「わたしには金や銀はないが、持っているものをあげよう。ナザレの人イエス・キリストの名によって立ち上がり、歩きなさい。」

新約聖書 使徒言行録 3章6節

盛岡YMCA 総主事 濱塚有史

日本でメンバーも考えた③

「道を聞いてみるじゃ」と、首に掛けているガラケーを片手パカッと開き、知り合いに電話をし始めた。数分後、会話が終わりパカッと閉じた。

その直後、私たち2人と目線を合わせ、「わしも、あまり詳しくは分からないけど、もしよかったら案内しようか」の一言。私はこの一言で、心がとても温かくなった。

お互い初対面という関係から考えると、「分からない」「知らない」というのが、ごく一般的で、わざわざ道を案内する人など、とても少ないだろう。正直、おじいちゃんと出会う前までの自分は考えもせず、すぐ「分からない」「知らない」と口にしてた。

なぜ、おじいちゃんがこのような言動をとったのか考えてみると、もしかしたら、幼い頃に受けた教育と、育ってきた周囲の

環境と密接な関係があるのかもしれない。日本は治安の良い国だと、多くの外国人から言われているが、ネガティブな話題がニュースや新聞に取り上げられることも少なくない。

そう考えると、おじいちゃんの生きてきた時代と、現代には大きな違いがあるのかもしれない。

さて、日本に来てもうすぐ3年。生活にもだいぶ慣れてきた。週末は子どもたちと全力で遊び、平日はごくごく普通の大学生活を楽しみ、毎日がとても充実している。そんな私だが、まだ日本に来たばかりの頃、大学へ行く道で毎日のように見慣れる光景に出会っていた。

それは... (つづく)

岩手大学3年 オンホーイン
(メンバーリーダー)

感謝

(2018年度10月30日現在) 敬称略

●維持会員

熊谷大樹、工藤直子、今松桂子、熊谷太、吉崎陽、水田賢次、大関靖二、阿部深雪、光永尚生、濱塚秋二、濱塚れい子、増田隆、名古屋恒彦、名古屋理恵、植田一茂、戸貞文、高橋友恵、熊谷力實、尾形裕一郎、伊藤信彦、田村治之、川坂保宏、澤田優美、北田仁則、北田アユ子、古澤伸、武田理恵子、鶴丹谷三千代、高橋廉翔、人見晃弘、菊地弘生、重石桂司、高瀬稔彦、千田沙里、工藤悦子、家村知佳、滝川佐波子、小笠原邦夫、遠藤昌樹、清水治彦、上中優奈、今野聖子、今野健男、林辰也、森山日菜乃、森山幹大、佐藤隼人、工藤あさひ、工藤誠太、佐藤洋一、中島敬泰、小野寺大介、魚住恵、神田橋慧二、山口貴伸、濱塚有史、濱塚真美、高橋奈菜、押切梓、齋藤之彦、南原良哉、小林茂元、伊藤真一郎、伊藤みどり、小川嘉文、小川明佑、伊藤真太郎、伊藤愛美、松尾聡子、中原眞澄、日語教会、島田茂、佐藤翔、中村圭一、小山憲彦、角谷晋次、水野暢夫、澤田鉄平、井上浩太郎、井上優子、井上修三、宮崎幸雄、浅沼慧、浅沼美希、大塚英彦、晴山浩輔

●寄附金

今松桂子、熊谷大樹、光永尚生、濱塚秋二、濱塚れい子、増田隆、高橋友恵、熊谷力實、伊藤信彦、中原眞澄、角谷晋次、潮田祐、晴山浩輔

表紙の写真から



「お昼ごはんの準備をするよー!」裏方リーダーが声をかけると、森の中から女の子たちが駆け下りて来た。「そんなに急ぐと転んで怪我をしちゃうぞ!!」でも、子供たちは、そうした失敗を通して成長していくんだね。サマーキャンプの一コマです。

最新情報はこちらでチェックできます! 「盛岡YMCA」で検索ください。

ホームページ  : <https://www.moriokaymca.org/>

facebook  : <https://ja-jp.facebook.com/moriokaymca/>